

公立文化ホールにおける長期使用の要因に関する研究

—公立文化ホールを長期使用するための方策構築に関する研究—

建築計画—施設計画

准会員 ○ 田彦 俊基^{*1}正会員 勝又 英明^{*2}公立文化ホール 長期使用 改修工事
長寿命化 老朽化 運営

1. 研究背景と目的

公立文化ホールは、現存する多くが、特に1990年代に建設されている。現在では竣工後50年以上経過しているホールも多く、更新や大規模改修の時期を迎えている。

そのような中で、公立文化ホールをより長く使い続けるために本研究では、既に長期使用されている公立文化ホールに対して長期使用につながる要因を調査し、ホールの長期使用につながる指針を示すことを目的とする。

本研究における具体的な指針として、建築設計系、都市系、設備改修系、維持管理系、運営系、評価系の視点から分析を行い、ホールの長期使用の有効な要因の抽出を行う。

2. 研究方法

2.1 研究対象

調査対象は平成29年度に「平成28年度全国公立文化施設名簿」を元に、全国の公立文化ホール2371施設に対し、アンケート調査に回答して頂いた929施設のうち、築40年以上（2019年度時）である239施設から、過去に大規模改修を行ったことのある109施設を対象とした（図1, 2）。その結果、79/109（有効回答率72.4%）の回答を得た（2019年1月6日現在）。アンケートは各施設の施設管理者に回答を依頼した。

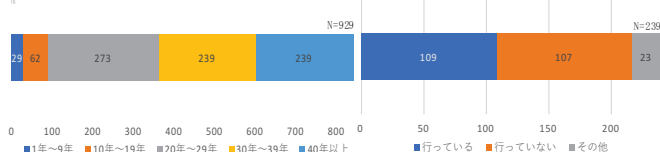


図1 ホールの築年数との関係

図2 大規模改修の実施有無

アンケートに回答して頂いた79施設の竣工年と客席規模をそれぞれ分析したところ築40年以上のホールにおいて「1971年～1980年」に竣工したホールが最も多く、過半数を占めており、長期的に維持されていることがわかった（図3）。また客席規模を分析したところ、「1001席～1500席」のホールが最も多いことがわかった。次いで多かったのは「501席～1000席」のホールとなった。

一方で「2501席～3500席」のホールは今回の対象ホールには該当しないということがわかった（図4）。このことから今回対象とした築40年以上で大規模改修を行ったホールでは小中規模の客席規模を持つホールが多いということが明らかとなった。

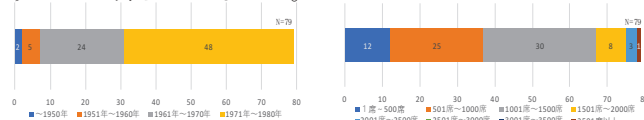


図3 対象ホールの竣工年

図4 対象ホールの客席規模

2.2 研究方法

公立文化ホールの長期使用につながっていると仮説を立てた調査項目を系統別に建築設計系、都市系、設備改修系、維持管理系、運営系、評価系の6つに分類をした。

調査内容は、参考文献(5)の建築物の適切な維持保全を長期にわたって実施し、優れた改修を行うための指針などを研究する公益社団法人ロングライフビル推進協会（BELCA）の資料を参考に公立文化ホールに関係する要素を抽出し、長期使用につながる要因の抽出を行うこととする（表1）。

表1 アンケート項目

調査項目	小分類	調査内容
一般属性		施設名称、回答者情報
建築設計系	施設全体	外観のデザイン、内観のデザイン、建築計画的配慮、平面的配慮、断面的配慮、バリアフリー対応、搬入動線、用途変更への対応、使用素材の質 等
	表方	音響設計、多様な演目計画、適切な客席数、舞台規模、舞台の見やすさ、市民活動の場、使いやすさ 等
	裏方	楽屋機能、裏方動線、リハーサル室の有無、楽屋の通風や採光、搬入動線、搬入計画、使いやすさ 等
都市系		利用人口、地域性の配慮、交通の便、類似施設の有無、立地、近隣の変化、避難所利用 等
設備改修系	建築	大規模改修の有無、定期的改修の有無、ゆとり確保、耐久性、メンテナンス配慮、省エネルギー化、設備の更新、構造の強度 等
	舞台	舞台三設備の更新、設備と躯体の切り離し、設備更新のしやすさ 等
維持管理系		予防保全の有無、消防法点検時の指摘是正、情報管理、設備管理のマニュアル化 等
運営系		自主事業、ワークショップ、イベント、コンクール、行事利用の場、改築予算の有無 等
評価系		外部評価、運営者対応、文化財指定、著名な建築家による設計、出演者や演奏者の評判、デザイン面での受賞歴、周辺住民の留保要望、住民の親しみ 等

Research for the factors to use national public halls for long time—Research for taking measures to use national public halls for long time—

TADA Toshiki, KATSUMATA Hideaki,

3. 長期使用の要因

3.1 全体の長期使用につながる要因

アンケート調査によって得られたホールの長期使用の要因を系統ごとに降順に並び替えたところ、図9のようになった。全体を通して長期使用の要因を見ると、評価系の「地域の人に親しまれている」が最頻値であることがわかった。それ以外においては「点検によって事故を未然に防いでいる」や「学校の行事の場になっている」「市民の皆さんが活動できる場がある」「大規模改修工事を行った」などが長期使用の要因として高い度数となった。

「地域の人に親しまれている」に回答をした施設では「学校の行事利用の場となっている」や「市民の皆さんが活動できる場がある」などの設計面や運営面でも回答をしていることがわかった（図5）。以上のことから長期使用をしていく上で、「地域の人に親しまれる」運営づくりや施設づくりを進めていくことが重要であると推測できる。

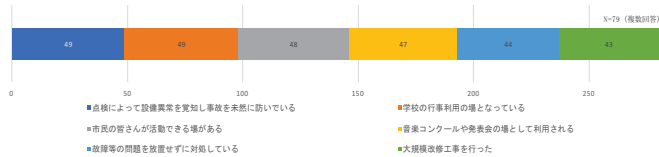


図5 他の項目への回答数比較

次に、回答の過半数を超えている項目を見ると設備改修系の項目数が最頻値となった。次いで維持管理系の項目数が多い結果となった。設備改修系の項目では大規模改修工事を行ったことや舞台三設備の更新を行っていることが長期使用の要因として挙げられている。維持管理系の項目においては点検を行うことや故障の放置をしないなどが挙げられた。以上のことからホールの長期使用の要因として施設面での改修や点検を通じた故障等の改善など維持管理をしていくことが重要であると推測できる。

3.2 全体の長期使用につながらない要因

長期使用の要因につながらなかったものとして建築設計系で「アーティストラウンジがある」「楽屋や共有部などに採光や通風を考慮した計画がなされている」、設備改修系で「施設の設備配管や電気設備配管等を切り離している」、評価系で「省エネに対する外部評価を受けている」などが挙げられた。

4. 建築設計系における長期使用の要因

系統別に長期使用につながる要因の調査を行った。建築設計系における長期使用の要因について尋ねたところ、「市民の皆さんが活動できる場がある」が最も多く回答が得られた。次いで多かったのは「多様な演目に対応できる計画がなされている」「客席から舞台が見やすい計画がなされている」となった（図9）。

建築設計系では項目を表1に示すように「施設全体」「表方」「裏方」に小分類をしており、度数の高い項目の多くは「表方」の項目であることがわかった。つまり施設全体や裏方の環境を重視する以上に表方としてホール利用者の

環境を整えることが長期使用の要因につながっていると推測できる。

5. 都市系における長期使用の要因

都市系における長期使用の要因について尋ねたところ、「周辺に類似施設がない」と回答したホールが最も多く、次いで多かったのは「交通の便が良い」「施設周辺の人口が多い」となった（図9）。「周辺に類似施設がない」は、周辺に類似施設がないためにホールを維持し続けているというマイナスな回答となった。一方で施設周辺の利便性や周辺人口などの都市的な要因が長期使用につながっている側面もあることがわかった。また「周辺に類似施設がない」と「交通の便が良い」に回答したホールの客席規模との関係をそれぞれ調べると「周辺に類似施設がない」に回答したホールでは「501席～1000席」の小規模のホールが最も多いことがわかった。一方で「交通の便が良い」に回答したホールでは「1001席～1500席」が最も多いことがわかった。（図6,7）。以上のことから都市的要因によっては施設面でのニーズに合わせた施設計画をしなければならぬと推測できる。

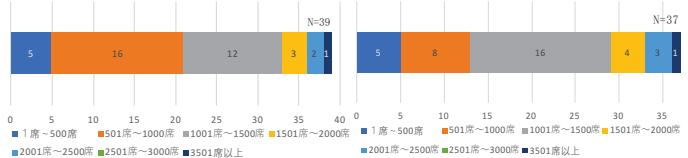


図6 客席規模との関係

図7 客席規模との関係

6. 設備改修系における長期使用の要因

設備改修系における長期使用の要因について尋ねたところ「大規模改修工事を行った」と回答したホールが最も多く、次いで多かったのは舞台三設備である『「機構」「音響」「照明」の更新』『「定期的」に改修工事を行っている』となった（図9）。「大規模改修工事を行った」と回答したホールに対し大規模改修工事を行った要因を尋ねると「建築設備の老朽化」「天井補強」「法律改正」などが要因であると回答をした（図8）。

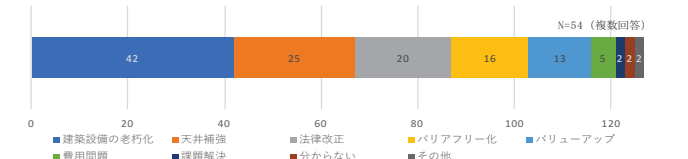


図8 大規模改修工事を行った要因

舞台三設備である『「機構」「音響」「照明」の更新』は参考文献（2）に記述されているように改修面から見たホールの長期使用のための方策の一つとして挙げられており、「定期的」に改修工事を行っているも同様に定期的なメンテナンスを通して施設の現状把握を行い、点検結果に反映した改修検討を行うことが長期使用するための方策として挙げられていた。以上のことから今回のアンケート調査によって設備改修系におけるこれらの長期使用の要因は実際にホールの長期使用の要因として有効であることが明らかとなった。

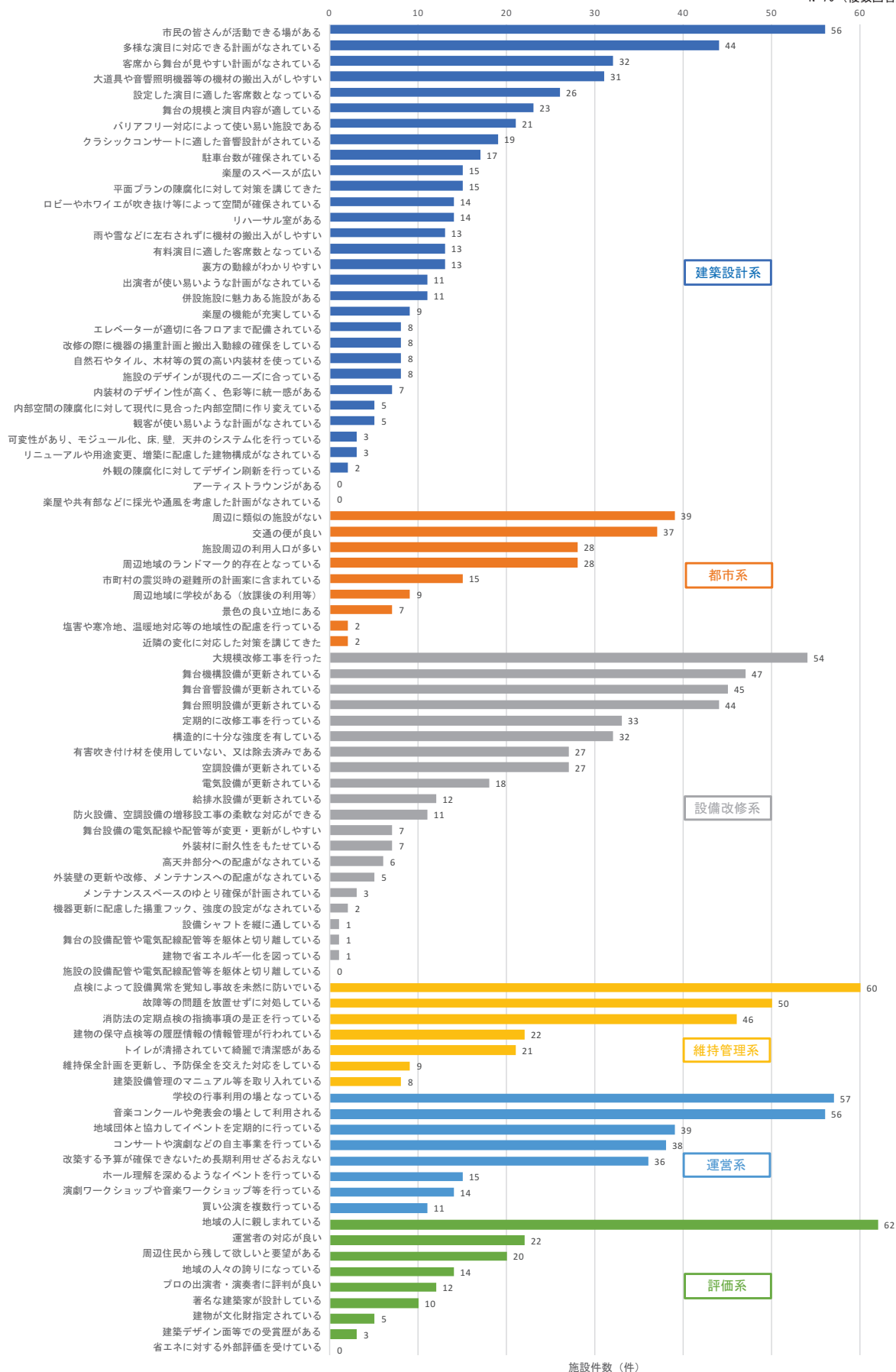


図9 ホールの長期使用の要因

7. 維持管理系における長期使用の要因

維持管理系における長期使用の要因について尋ねたところ、「点検によって設備異常を覚知し事故を未然に防いでいる」と回答したホールが最も多く、次いで多かったのは「故障等の問題を放置せずに対処している」「消防法の定期点検の指摘事項の是正を行っている」となった(図9)。点検によって設備異常を覚知し、事故を未然に防ぐことや設備故障などを放置しないことはホールの維持管理を行い、長期使用につなげていく上で非常に重要であり、経年によって各設備機器や建物全体の老朽化、劣化に対応していく有効な手段であることがわかる。そのため持続的な設備点検や指摘事項の是正を運営面から意識して取り組まなければならないと考えられる。

8. 運営系における長期使用の要因

運営系における長期使用の要因について尋ねたところ、「学校の行事利用の場となっている」と回答したホールが最も多く、次いで多かったのは「音楽コンクールや発表会の場として利用される」「地域団体と協力してイベントを定期的に行っている」となった(図9)。「学校の行事利用の場となっている」に回答をしたホールに対し、教育機関との連携を行っているか尋ねたところ、教育機関との連携を行っているホールが多いことがわかった(図10)。

このことから周辺地域の教育機関との連携を行い、学校の合唱コンクール等で使用され続けていることが長期使用の要因につながっていると推測できる。次に「音楽コンクールや発表会の場として利用される」に回答したホールに対しどのような事業を行っているか尋ねたところ、「貸し館事業」が最も多いということがわかった(図11)。

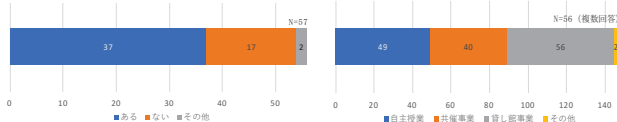


図10 教育機関との連携

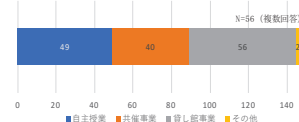


図11 対象ホールの事業内容

また同様に今回対象とした公立文化ホールに対しどのような事業を行っているか尋ねたところ、最も多かった回答が「貸し館事業」であった(図12)。以上のことから、長期使用の要因として音楽コンクールや発表会の場としての利用、教育機関との連携を含めた学校の行事利用の場などに貸し出しを行う「貸し館事業」に取り組むことが長期使用の要因につながっていると推測できる。

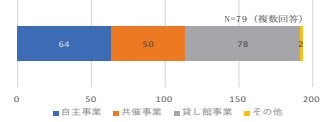


図12 全国のホールの事業内容

9. 評価系における長期使用の要因

評価系における長期使用の要因について尋ねたところ、他の評価系項目と大きな差をつけて「地域の人に親しまれている」が最も多い回答となった(図9)。

「地域の人に親しまれている」に回答したホールに対し、専門の人材の養成、確保及び職員の資質の向上に努めているか尋ねたところ、「している」と回答したホールが多いことがわかった(図13)。また年齢や障害にかかわらず、より多くの利用者が実演芸術を鑑賞できるように工夫されているか尋ねたところ、「している」と回答したホールが多いことがわかった(図14)。

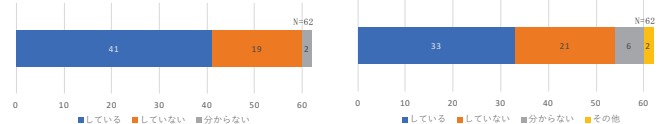


図13 職員の資質の向上

図14 利用者への工夫

以上のことから、評価系においては地域住民に親しまれることが、ホールの長期使用につながっていると推測できる。地域の人に親しまれるためには運営面や施設面でも対策を講じなければならないが、一例として、専門的人材の育成や確保、そして職員の資質を向上させることがホールの評価につながると考えられる。また、年齢や障害にかかわらず、多くの利用者が実演芸術を鑑賞できるような施設面での工夫をすることもホールの評価につながり、長期使用の要因につながっていると推測できる。

10. 長期使用するための方策

公立文化ホールを長期使用していくためには、施設面で利用者を意識した設計、点検による設備異常の把握、経年による設備機器の劣化に対する定期的な改修、舞台三設備の更新、運営面では教育機関との連携、地域団体とのイベント活動、専門的人材の育成、確保と職員の資質を向上させることがホールの長期使用につながっていくと推測される。

【謝辞】アンケート調査等にご協力いただきました、全国の公立文化ホールの皆様に厚く御礼申し上げます。なお、本研究は平成29年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)「公立文化ホールを長期使用するための方策構築に関する研究(課題番号:17K06725)(研究代表者:勝又英明(東京都市大学))を得て実施されました。

【参考文献】

- 1) 城所友莉奈、玉井宏典、勝又英明：公立文化ホールにおける改修工事に関する研究-公立文化ホールを長期使用するための方策構築に関する研究(その1)-、日本建築学会大会学術講演梗概集、2018年9月
- 2) 城所友莉奈、玉井宏典、勝又英明：公立文化ホールにおける改修工事に関する研究-公立文化ホールを長期使用するための方策構築に関する研究-、日本建築学会関東支部研究報告集、2019年3月
- 3) 勝又英明、城所友莉奈：公立文化ホールにおける改修実態に関する研究(ヒアリング調査による)-公立文化ホールを長期使用するための方策構築に関する研究-、日本建築学会学術講演梗概集、2019年9月
- 4) 平成28年度全国公立文化施設名簿
- 5) 公益社団法人ロングライフビル推進協会(BELCA)：「ビルの所有者・設計者、不動産管理士のためのオフィスビル性能等評価・表示マニュアル」「ロングライフを目指すビルのライフサイクルマネジメント」「PFI事業における維持保全のモニタリングガイド」「より良いメンテナンスのための設計・施工10の原則改訂版」

*1 東京都市大学工学部建築学科

*2 東京都市大学工学部建築学科教授・博士(工学)

* Dept. of Architecture, Tokyo City Univ *1

*Prof, Dept. of Architecture, Tokyo City Univ. Dr. Eng *2